

1106

11月06日をOPTIMUMでは「いいマムの日」としています。





セイグレアム



セイカーク



セイミレーヌ



セイパピー



セイブルノイエロー



セイメリタ

セイカブレラ



セイエデイタ



セイレゾイ



セイカミンオレンジ



バイゴールドイージー



ウオーク



ゼナ



クセニア

フェリー



サンデイ



テキーラ



シャンパンアイボリー



エリゾン



フェリーイエロー



マカロン

バルタザール



マルベリー



ボンボン



ゼンブラライム



オメガ



ボンボンオレンジ



アブロン



ロサノーシヤルロツテ



サイレント



バルティイカサーモン



マムってどんな花？

マムとはキク科キク属の花のこと。学名のクリサンセマム (*Chrysanthemum*) から、欧米をはじめ世界各国ではマム (Mum) と略して気軽に呼ばれています。日本では従来の菊と混同されがちなのこの花を、「マム」という愛らしい呼び名で普及できよう、OPTIMUMでは活動していただきます。マムが日本にやってきたのは、1974年。国の研究者がオランダから、一重でマーガレットのような佇まいで枝分かれしたマム (スプレータイプ) を持ち帰りました。花色はオレンジとピンクで、当時は衝撃的でした。高度成長期の日本には、菊らしくない花色で長く楽しめるマムがお祝いのシーンや花束にぴったりででした。ここから日本のマムの歴史がはじまりました。

Flower&Green: マム (セイカミン、セイカブレラ)、ヤマイチゴ、グリーンフレークゼラニウム、ケイトウ、真珠葉アカシア



母の日に マムを贈ろう

母の日にはカーネーションを贈るというのがスタンダードですが、マムも母の日にぴったりな花です。英語圏では、お母さんのことを「マム (Mom)」と呼びます。マムとはスペルが異なりますが発音は似ています。このことから、オーストラリアでの母の日にはマムを贈る習慣があります。またイギリスの母の日でもマムの人気は高く、ブーケなどに利用されます。マムには、さまざまな色や花形があるのですが、他の花との組み合わせも自在です。日持ちも長いマムは、母の日のアレンジメントやブーケにおすすめです。

Flower&Green：マム (シヤンパンアイボリー、ゼナ)、ウエストリンギア、オレガノ、クレマチス ‘ピエロ’、ジョウザンアジサイ、ステイファア、ハープゼラニウムほか



オプティマイマム

OPTIMUMとは

日本全国のマム生産者で構成され、マムの普及、PRを目的としたチームです。「日本の菊から世界のマムへ」という熱い思いで、マムの魅力、使いやすさを花店や一般の人に伝えるための活動を行なっています。

Flower&Green：マム（ウォーク、ジョルディ、ゼナイエロー、フェレイイエロー）、ヒメリンゴ、ブドウ‘デラウエア’、ミツバイチゴ、スノーフレックセラニウム

発行：OPTIMUM

協賛：イノチオ精興園株式会社
ジャパンアグリバイオ株式会社
株式会社デリフロールジャパン

編集：Flow

デザイン：MICHI GRAPHIC
フラワーデザイン：岡寛之

撮影：三浦希衣子

印刷：株式会社大熊整美堂

*本書内の画像、テキストなど許可なく複製、転写、転載することを禁じます。

マムの教科書



マムの種類

マムの仕立ては、大きく2つに分けられます。ひとつは、1本が枝分かれして複数の花が咲く「スプレータイプ」。現在、流通しているマムのほとんどはこのタイプです。もうひとつは1輪の大きな花を咲かせる、「デイスバッド(Disbud)タイプ」です。2つの見た目の違いは、花の数と花の大きさ。デイスバッドタイプは、茎から出てきた芽を栽培期間中に取り除き、1輪に仕立てるため、dis (取り除く) とbud (芽) という英語から名付けられています。大きな花が魅力的なデイスバッドタイプですが、芽を取り除く作業は手作業なため、生産の時間はプレータイプよりもかかっています。また品種によっては両方のタイプが流通しています。

Flower&Green: マム (アブロン、バルタザール、バルティカサーモン、マルベリー、ロサーノシヤルロツテ)、アジアントム、アセビ、グレープアイビー



NEWBORN

Produced by  OPTIMUM